

# Polaris

長町南小学校 第6学年通信

NO. 9

2020.5.12(火)

## 《子どもたちへ 「課題を効果的に活用してください。」》

夏を思わせるような暑い日もあれば、冷たい風が体を通っていくような日もあります。行っては戻り、ジグザグを繰り返しながら時間が過ぎていく…季節も人生と同じようなものかもしれません。

5月も、いつの間にか、10日以上過ぎました。

学校からの郵送物は届いたでしょうか。以下の物が入っているか確認してください。

- 学校だより
- 男女別クラス名簿（自分の番号を見て、登校日と時間を確認してください。）
- 学年通信
  - ・NO. 8（登校グループ・一人一人へのメッセージ）
  - 〔NO. 2～NO. 7までと、NO. 9以降は、登校日に印刷して渡します。〕
- 臨時休校中の課題説明プリント（ピンク色の紙）
- 学習課題 問題冊子（自分で丸付けをして、登校日に提出してください。）**
- 学習課題 解答（縮小した2枚組の物です。）
- 自力学習の仕方のポイント、学習カード冊子（黄色の表紙）
- 感染症対応健康観察票（必要事項を記入して、登校日に提出してください。）**
- マスク

どれも大切な物です。しっかりと目を通して、対応してください。

足りない物や印刷が抜けているものがある場合、不明な点がある場合などは、学校に連絡してください。

登校日に、元気に会えるのを待っています。

## 《新学期あるある 6年担任編》

- 考え事をしていると、昨年の教室に向かってしまう。
- 考え事をしていると、昨年のクラスの数字に反応してしまう。
  - ・(例)「何気に4組の書類を手にするが、今年は3組だったと気付く。」
- 漢字で書くべきか、ひらがなで書くべきか迷う。
  - ・低学年⇔高学年と変わったときは、よくあります。
- 宿題を出すのを忘れる。
  - ・今年は忘れないようにします。(笑)

もうすぐ皆さんとの生活が始まります。6年生の本格的スタート間近です。

## 6年生 家庭での学習の進め方について その⑨ 国語「説明文」編

「イースター島にはなぜ森林がないのか」の自力学習の進め方を紹介します。

説明文の学習の進め方は、教材によって様々ありますが、今回は、最も基本的な学習の進め方について紹介します。どの説明文の教材でも当てはまる方法なので、まずは、以下のように取り組んでみましょう。

筆者は、自分が伝えたいことを納得して読者に受け取ってもらいたいからこそ、長い文章を書きます。「イースター島にはなぜ森林がないのか」について、教科書7ページにわたって説明文を書いているのは、筆者の強い思いの表れです。皆さんにも、しっかりと筆者である鷺谷いづみさんの思いを受け取ってほしいと思います。(授業でのくわしい説明もなく、この学年通信だけでは、分かりにくい所もあると思いますが、やれる部分だけで構いませんので、以下に取り組んでみてください。)

※準備物…国語の教科書、国語のノート、国語辞典、漢字辞典

### ◎「イースター島にはなぜ森林がないのか」の学習の進め方(例)

#### ①題名読みをする。

▽まず、題を国語のノート(学習カードでもOKです。)に書く。次に、題を見て疑問に思ったことをノートに書き、できれば調べてみて、調べたことを簡単にノートに書いてまとめる。

・(例) イースター島とはどこにあるのか。人や動物は住んでいるのか。自然の様子は?産業は?

#### ②全文を音読し、段落に番号を付ける。

・全文を読み、教科書に直接、形式段落の番号を付ける。

・形式段落とは、文章を構成する内容の小さなまとまりである。

本説明文は、27段落で構成されている。

・段落の始まりは、文章の中で書き出しが1文字下がっている所である。

・分からない言葉があれば、ノートに書き出し、辞典で読みや意味を調べてみる。

#### ③説明文の構成を考える。(説明文は大きく3つの部分で構成されている。)

・序論…「話題提示」をしたり「大きな問い」を投げかけたりする部分

・本論…「事例や理由を述べて、くわしく説明」している部分

・結論…「大きな問いの答え」や「筆者の考えや読者へのメッセージ」を述べている部分  
何度も教科書を読み返して、分かったら教科書に直接、区切りの線を引く。

#### 〈高学年の説明文基礎知識〉

●説明文の構成には、次の3つのパターンがある。

1 「尾括(びかつ)型」…筆者の考えの中心が「結論」部分にある。

2 「頭括(とうかつ)型」…筆者の考えの中心が「序論」の部分にある。

3 「双括(そうかつ)型」…筆者の考えの中心が「序論と結論の両方」の部分にある。

もちろん「イースター島にはなぜ森林がないのか」の説明文は「尾括型」である。

#### ④本論の構成（意味段落）を考え、本論の展開の仕方について考える。

▽本説明文の本論は、本論①～本論⑤の5つの意味段落に分かれる。

（本論の分け方は、様々あるが、この説明文は5つに分けてみよう。）

▽それぞれの意味段落について、ノートに1文要約（要約文を作る）をする。

・要約文を作る。

→重要な言葉をもとに、意味段落を1つの文にまとめる。（中学年の時に学習済み…のはず。）

・要約文を作るポイント

→説明文の命は題にある。「イースター島」「森林」という言葉に着目する。

▽それぞれの意味段落の中で、柱の段落（意味段落の中心となる段落）を抜き出し、柱の文（要旨に直接関連する重要な事実を述べている文）を押さえる。

・段落の中心分はどれか、事実や例の文はどれか、理由の文はどれかについて検討する。

・それぞれの意味段落の柱の文を見つけ、教科書のその文に直接線を引く。

・各意味段落には中心段落（柱の段落）があり、柱の段落の中には、中心分（柱の文）がある。

※筆者は、いったい本論で何を説明し、どのように読者を説得しようとしているのか。この流れをしっかりと理解し、押さえることが、「要旨」（筆者の伝えたいことの中心）を理解することに深く関わってくる。

#### ⑤要旨を理解し、自分の考えをまとめる。

▽説明文の要旨を、ノートにまとめて書く。

・作者の訴えたいことの中心は、結論にある。

・筆者の思いを納得して受け止められたか。

▽要旨について、自分の考えや感想を理由も付けて、ノートにまとめて書く。

・筆者の伝え方の良さはどこか。どのように改善すれば、もっとよくなるか。

・筆者の考えについて賛成か反対か、どのような意見や感想を持ったか。

※高学年の説明文の学習は、ここを持って完結する。

なぜ、説明文を学習するのは、次の力を身に付けるためです。最後に、もう一度、次の点について考えを深めてみましょう。

### ※説明文を通して身に付けたい力

①筆者が伝えたいこと（事例・理由・要旨〈筆者の考えの中心〉）を正確に理解する力

→筆者の伝えたいことを理解できたかな？

②筆者の伝えたいことの伝え方の良さや改善点を検討する力

→筆者の書き表し方の良さや改善点を見つけることができたかな？

③筆者の伝えたい事に対して、自分の意見や感想を持つ力

→筆者の考えに対して、自分の考えを持つことができたか？